

4年前に香南市で女子プロゴルフの大会を取材し、初めて選手を間近で見た。驚いたのが、彼女たちのがっしりとした下半身。足腰の力は球を遠くに飛ばす土台になるのだと、素人なりに納得した。

そんな体を手に入れようと、高知市の山本唯加さん

土佐
あさひす

(20)が土佐市のジム「元気クラ

ブ」で汗を流している。小中高と全国大会にも出場し腕を磨いたが、昨年挑んだプロテストは不合格。「周りの選手はどんどん体が大きくなるけど、私は細いまま。飛距離で置いていかれた」。鍛錬は、やはり下半身を念入りに行う。一方で彼女にとって心強い

飛躍の土台

は、地域のサポートという土台だろう。ジムは、講習会などの特典を設けて地元企業のスポンサーも募っている。トレーニングの傍らスタッフとして働く山本さんも同行し、新たな器具の購入費など応援を受けた。

体づくりに欠かせない食べ物を提供してくれる店も複数ある。市内のかつお節店社長は「細い女の子が一生懸命プロを目指しゆう姿を見たら、できる限りのことはしてあげたい」と話す。

善意を血肉にして、山本さんの足腰もたくましくなってきた。「すごくいい環境。後は自分次第ですね」。夢がかなう日を、多くの人が待っている。

(土佐・山崎友裕)

土佐市内のトレーニングジムで男性陣に混じって筋トレに励む女性がいる。彼女が手に入れたものはマッチョな肉体ではない。プロゴルファーとして活躍する夢を実現するためだ。

高知市石立町の山本唯加さん(20)は父親の影響で、5歳でゴルフを始め



た。10歳ごろからは県内外の大会にも出場。同世代のゴルフ仲間ができたこともあり、一気に競技へのめり込んだ。小学6年の時には全国大会で2位に入り、進学した明德義塾中高でも国体など全国大会に多く出場した。アマチュア時代には実績を残したが、プロの壁は厚かった。土佐カント

夢のプロゴルファーへ



「体が大きくなったねってよく言われます」と話す山本唯加さん(土佐市の「元気クラブ」)

リークラブ(香南市)のずっと課題でした。研修生として練習に励み、そのことを同校ゴルフ部ながら挑んだ昨年のプロ部のコーチらに相談。同テストは不合格。アプロ校ウエートリフティング

イチなど短い距離の正確部監督の小松弘和さん性には自信があったが、(36)が、土佐市波介のトレーニングジム「元気ク

ラブ」代表を務めていることから「入門」することになった。

昨年12月に本格的な筋トレを開始。週2、3日、清掃や会計入力などのアルバイトをしながら、主に下半身を鍛え上げていく。筋トレだけでなく食事でも意識した結果、半年で5キロ体重が増え、ドライバーの飛距離も10〜15メートル伸びたという。

プロテストでリベンジを期す山本さん。「飛距離に自信がついてスコアも安定してきた」と手応えを感じている。

奮闘を知った土佐市内のかつお節店やパン屋からは、食料提供という形の応援も。「いつかは大会のシード権が取れる選手になりたい。支えてくれる人に結果で恩返ししたいです」。盛夏8月、勝負のプロテストに臨む。

(土佐支局・山崎友裕)